

日本海事新聞

THE JAPAN MARITIME DAILY

発行所 日本海事新聞社 本社 〒105-0004 東京都港区新橋 5-19-2 ©日本海事新聞社 2018

(3) 港湾/物流 2018年(平成30年)3月15日(木曜日)

SGHグローバル

中国・アジア市場に意欲

正代代表 越境ECで講演

SGホールディングスグループの国際貨物事業、物流倉庫事業を担うSGHグローバル・ジャパンの正代誠代表取締役は9日、東京都内で開かれたビジネス交流会「ロイヤル会(主催・ロジコンシエル)で、中国向けの越境EC(電子商取引)をテーマに講演した。中国の越境ECには課題もあるが、正代氏は「販売会社(越境EC事業者)と共に課題を解決しながら、中国・アジア市場に日本商品を出していきたい」と意気込みを示した。また、東南アジア向けの越境ECの拠点としてマレーシアが注目され

ると指摘した。正代氏は中国の越境ECについて、市場規模や消費の動向、通関方式、税制と輸送、コストなどを詳細に解説。物流の請負範囲と契約内容の精査など、中国の越境EC市場に進出する際の注意点も説明した。通関では、正規のルートのほかには、当局に摘発される可能性のある「グレーゾーン」の通関も行われているため、通関の方式を確認することは重要だという。

中国の越境ECの課題としては、販路、代金回収、クレーム対応、物流などもあるが、市場は大

きい。2015年の約2兆円から18年には約9兆円に達するとの予測もあり、正代氏は「物流会社と販売会社は課題を乗り越えるために取り組んでいくべきだ」と語った。

東南アジアは中国に続く一大市場と目されている。ただ、東南アジアは国単位の人口が少ないため、正代氏は東南アジア市場でEC事業を拡大するには「同地域のハブ倉庫を設置するのがよいのではないか」と話し、条件の良い国としてアリババグループも地域ハブを構築しているマレーシア

を挙げた。ロイヤル会は佐川急便出身の近藤正幸社長が09年に設立し、物流機能のマッチングサイトの運営などを手掛けるジコンシエル(東京都中央区)が毎月開いている。9日は第80回を記念する拡大版として開催し、物流関連企業の関係者ら約100人が出席した。

講演後の懇親会で近藤氏はあいさつし、「ロイヤル会のコンセプトは『お互いにビジネスをしよう』ということ。業務提携の話なども活発に交わされている。会をビジネスのヒントにしてほしい」と出席者に呼び掛けた。

日本物流団体連合会の西城利夫総務部長が乾杯の音頭を取り、出席者はぎやかに歓談した。



講演する正代氏(左)近藤氏があいさつ

